

JEITA 知識情報処理技術に関するシンポジウム 集めないビッグデータ(2) —個人データの安全な活用に向けて—

- 主催：ビッグデータ工学専門委員会（旧 知識情報処理技術専門委員会）
- 担当部署：インダストリ・システム部
- 参加者数：約110名

概要

個人データの管理における安全性とは、本人に不利益なデータ利用を防ぐということです。これは、(1) データ利用を許可する者（複数可）の認証を厳しくし、(2) 本人の利益に即して判断する人を許可者に含め、(3) 一度に漏洩するデータを少なくすることにより実現できます（(2) は (3) を含意します）。もちろん集中管理（(1) のみ）より本人による分散管理（(1) + (2) + (3)）の方が安全です。

一方、個人データの管理における利便性には、個人的利便性（B2C サービスの本来の価値）と社会的利便性があります。前者は本人に役立つことで、後者は本人

を含むとは限らない多くの人々の役に立つことです。安全性と個人的利便性を高めるには本人が常に関わる仕方で個人データを管理するのが望ましいわけですが、データ利用の可否を本人がすべて直接判断するのは煩雑でしょうし、また社会的利便性を高めるにも、データ利用の許可にいちいち本人が直接関わらない方が良くも知れません。本シンポジウムでは、安全性と利便性をバランス良く両立させながら個人データを活用する方法について、技術や制度などの観点から活発な議論を展開しました。



プログラム

○開会挨拶

JEITAビッグデータ工学専門委員会委員長 橋田 浩一 氏（東京大学）

○「番号制度とデータ連携の在り方」

須藤 修 氏（東京大学）

○「OpenID Connectと『同意』にもとづくパーソナルデータ『購読』」

崎村 夏彦 氏（株野村総合研究所）

○「プライバシー保護と利活用のバランスを目指すプライバシー／ポリシーマネージャの開発」

高崎 晴夫 氏（株KDDI総研）

○「個人データの集中管理と分散管理」

JEITAビッグデータ工学専門委員会委員長 橋田 浩一 氏（東京大学）

○「個人データの管理とプライバシー」

宮内 宏 氏（宮内宏法律事務所）

○パネルディスカッション

座長 出口 弘 氏（東京工業大学）

パネリスト

橋田 浩一 氏（東京大学）

崎村 夏彦 氏（株野村総合研究所）

高崎 晴夫 氏（株KDDI総研）

須藤 修 氏（東京大学）

宮内 宏 氏（宮内宏法律事務所）

○閉会挨拶

JEITAビッグデータ工学専門委員会委員長 橋田 浩一 氏（東京大学）